

作業時間7割、紙9割減

スペース

内装監理効率化システム

デジタル申請、情報共有も

スペース（東京都中央区、佐々木靖浩社長）はこのほど、建設現場の内装監理業務効率化を図る情報一元化システムを開発した。作業時間7割、紙書類9割の削減を可能とする。

ネコンやテナント関係者との間で商業施設の計画からオープンまでを総合的に管理するコーディネート業務だ。現場では申請に係る書類が多く、これまで関係者は大量に紙を持ち歩く必要があるほか、大量の書類管理も負担が大きかった。

今回のシステムは、建設現場の作業届や搬入届などこれまで紙で行われてきた各種申請をデジタル化する。スマートデバイスから作業申請し、申請状況もリアルタイムに確認可能だ。申請内容はクラウド上で一元的に管理し、監理者や作業者ら

関係者間で円滑に情報共有できる。

システム登録者にメッセージ送付、ファイル共有もできる「お知らせ機能」により速やかに情報伝達、現場の安全・品質向上も図れるという。

2022年11月に開業した「三井ショッピングセンターらぽーと堺」

で運用、内装監理業務の作業届、搬入届、書類整理に要する時間を従来比7割削減したほか、9割のペーパーレスも実現した。今後も商業施設を中心とした現場で運用、利用者からのフィードバックを得て機能改良、充実を図り、2023年以降に製品化する。